

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第261回

菊池省三

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年7月5日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## 褒めるってというのは 認めるってということでもあります。

菊池 省三は、日本の教育者。愛媛県八幡浜市出身。愛媛県立大洲高等学校、山口大学教育学部卒業。福岡県北九州市内の公立小学校に勤務。文部科学省の「『熟議』に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会」委員。全国コミュニケーション教育研究会会長。全国教室ディベート連盟研究開発委員。NPO 授業づくりネットワーク理事。

## Column

菊池氏は小学校の先生ということで、『小学生くらいの子供にはそれでいいのかもしれないけど…』と否定的に捉えてしまいがちですが、高校生であるみなさんはどうですか？褒められて嫌な気持ちになりますか？自分の取り組んだことに対して『褒められる＝認められる』ということに嫌悪感がありますか？40代の私ですが、褒められると非常にうれしいです。“次も頑張ってもっと喜んでもらおう！”という気持ちになります。

今回の言葉に出会うことで私も菊池氏の存在を知ることになりましたが、他にも似た言葉を残しています。『みんなが褒めるとか、みんなから褒められるとか、それを喜ぼうとか喜んでもらうとか、そういった事がお互いの成長につながる気がします。』というものです。今回の言葉を借りれば“認め合う”ということがお互いの成長に繋がるということです。褒められることによって“認められた！”と自信を持つことができます。いわゆる“自己肯定感”を高めることに繋がります。自己肯定感をわかりやすく説明すると『心から自分を愛することができる感覚』ということです。人から褒められた時、そんな自分を心から認め、自分で自分を褒めてあげられるかが次回の挑戦を目の前にした時に勇気が出るかどうかの重要なポイントのひとつなのかもしれません。

今回のような内容の話になると『自分に甘い』など、冒頭に述べたような否定的な考えを持つことも少なくありません。しかし、今回については手前に褒められるような“ファインプレー”があつてのことです。スポーツに携わり、指導をしている私から見て『もっと自信を持っていいのに…』と思う人がいます。現状に満足しないというストイックさは非常に大切だとは思いますが、『ダメだダメだ！』と自分を追い込みすぎるのは違うと感じています。スポーツの世界であれば大会、学生の世界であれば試験など、覚悟が決まっていようがいまいがその当日は待ってられませんし、どれだけ準備をしても緊張はするものです。そうであれば、自分に対する期待値をどのようにしてあげておくのか。やはり大切なのはポジティブ思考ではないでしょうか。ポジティブに考える自分と同じ感覚を持った仲間が高めた自己肯定感の輪を正智深谷高校で広げていきましょう！